

# 多面的・多角的に考える力の育成をめざす道徳科授業

—思考パターンを意識した授業づくりを通して—

教育実践研究科 教職実践基礎領域  
氏名：高木智香

## I. 主題設定の理由

### 1. 「特別の教科 道徳」の課題

文部科学省の有識者会議「道徳教育の充実に関する懇談会」の報告（2013）では、道徳教育について、「自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することを目指すもの」と述べ、道徳教育のねらいについて以下のように示している。

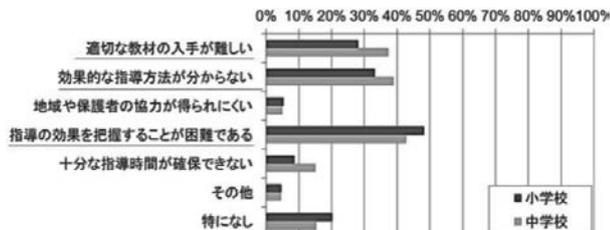
「児童生徒が、人が互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナー、規範意識などを身に付けるとともに、人間としてより良く生きる上で大切なものとは何か、自分は人間としてどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深めていくこと」<sup>1)</sup>

しかし、同会議で道徳教育の具体的な指導方法をめぐっては、次のような課題が指摘されたと述べている。<sup>1)</sup>

- ・地域間、学校間、教師間の差が大きく、道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。
- ・道徳の時間と特別活動をはじめとする各教科等との役割分担や関連を意識した指導が十分でない。
- ・道徳の時間の指導方法に不安を抱える教師が多く、授業方法が、単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。
- ・現代の子供たちにとって現実味のある授業となっておらず、学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めが良くない状況がある。
- ・児童生徒の発達の段階に即した道徳の時間の指導方法の開発・普及が十分でない。
- ・道徳の時間の授業で何を学ばせようとしているのかを児童生徒にも理解させた上で、具体的に実践させたり、振り返らせたりする指導が十分でない。
- ・道徳の時間の指導が道徳的価値の理解に偏りがちで、例えば、自分の思いを伝え、相手の思いを酌むためには具体的にどう行動すれば良いかという側面に関する教育が十分でない。

これらの指摘から道徳教育の課題は、「よりよく生きようとする態度を育成する指導の在り方や方法が確立していないこと」だとまとめることができる。

また、文部科学省による、「道徳教育実施状況調査」においても、「指導の効果を把握することが困難である」、「効果的な指導方法がわからない」など、教師自身が道徳教育について課題を感じている（図1）。<sup>2)</sup>



出典：文部科学省「道徳教育実施状況調査」…平成24年5月～6月実施。公立小中学校を対象。

図1 文部科学省「道徳教育実施状況調査」

このような現状から、教師自身が質の高い指導方法を模索していくことが必要だと考えられる。

### 2. 生徒の実態

連携協力校の生徒は、素直に感謝の気持ちを述べたり間違っていることは間違っているとはっきり伝えたりすることができる。しかし、友達を注意する際、必要以上に口調が強くなってしまい友だちを傷つけてしまうことがある。この背景には、相手の立場や状況を考える前に行動をしてしまっていることが考えられる。

### 3. 本研究の目的と目指す生徒像

「特別の教科 道徳」の課題と生徒の実態を踏まえ、筆者が担当する道徳科授業において、次のような姿を目指す生徒像と設定した。

相手の立場や状況を考えて行動し他者とよりよく生きようとする生徒

上記の姿を達成するために、多面的・多角的に考える道徳の授業実践を行うこととした。そして、指導の効果について分析、検証していくことで「自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成すること」を目指し、実践に取り組んだ。

## II. 先行研究及び実践の構想

### 1. 「多面的・多角的に考える」とは

坂本（2018）は、学習指導要領「特別の教科 道徳」に書かれている多面的・多角的な見方に発展している子どもは次のような姿であると整理している。<sup>3)</sup>

- ・道徳的行為や心情の善し悪しをいろいろ考えようとしている。
- ・道徳的行為や心情の動機についていろいろ考えようとしている。
- ・状況を変えて、道徳的行為や心情の善し悪しなどをいろいろ考えようとしている。
- ・道徳的行為や心情に関する様々な意見について比べて考えようとしている。
- ・道徳的価値に関する事柄と他の道徳的価値との関係を考えようとしている。

また、坂本はどれが多面的で、どれが多角的かという分け方は様々な考えがある上に、それぞれをどちらかに特定することは、評価や授業づくりにおいてプラスになるとはいえないため、「多面的・多角的」は一体的に捉える方がよいと述べている。

これを参考に、本研究における多面的・多角的に考えるとは、「立場や状況など見方を変えたり、他者の意見と比べたりして道徳的行為の善し悪しについて考えること」と整理した。

### 2. 道徳の授業に求められる思考力

押谷（2020）は、道徳の授業に求められる「考える力」を育てる思考パターンについて図2のように整理している。これらの思考をベースとした授業の展開を次のように提案している。<sup>4)</sup>

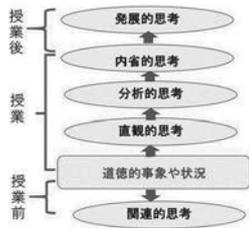


図2 道徳の授業に関わる思考形態

関連的思考	事前に促す思考。本時で取り上げようとする道徳的事象や状況について事前に考えたり調べたりする。
直観的思考	授業の最初で重視する思考。教材にあって、直観的に気づいたことや感じたことを出し合う。
分析的思考	中心場面における思考。直観的思考による様々な発言を取り上げ中心場面へとつなげる。中心場面では視点移動を行うことで多面的・多角的な考えを引き出す。
内省的思考	自分と深く対話する思考。出された考えをグルーピングするなどして整理し、道徳的価値について多様に捉えられるようにする。整理された考えをもとに、人間として生きることへの思いを深め自分との対話ができるようにする。
発展的思考	授業後に促す思考。授業で学んだことを発展的に学べるように、提示の工夫や学級通信、朝の会や帰りの会を利用したの問いかけや継続的なノート指導などを行う。

これを参考に本研究においても思考パターンを意識した授業づくりをし、多面的・多角的に考える力の育成を目指すこととした。本研究の授業デザインの詳細はⅢ章で述べていく。

### 3. 多面的・多角的な考えを引き出す授業実践

諸富(2020)は、中学校の道徳の授業において「考えるツール」、「議論するツール」を活用することを提案している。また、「ツールを活用することによって『多視点的に多角的なものごとを考えていく』という『道徳的な思考や話し合いの型』をおのずと、身に付けさせていくことができる<sup>5)</sup>」と述べている。

江口(2020)は、「正直・誠実」について多面的・多角的な考えを引き出すために、ワークショップ型の話し合いを位置づけた。その際、Yチャートという思考ツールを活用することで、3つの立場で考えることができるようにした。<sup>6)</sup> また、在原(2020)は、ホワイトボードと付箋を用いて、自分の意見と他者の意見を可視化して比較できるようにした。<sup>7)</sup>

伊藤(2020)は思考ツールの活用について、思考ツールを使うための授業方法を考えるのではなく、子どもの考えを広げたり深めたりするために、補助的に活用するという点に気を付けて授業をすることが大切であると述べている。<sup>8)</sup>

これらの先行研究を参考に、本研究では、多面的・多角的に考える力を育成するために、意見を可視化できるツールを思考ツールと捉え、活用することとした。

### 4. より深く考えることができる道徳通信

中山(2020)は、生徒の意見を道徳通信に載せる効果の一つに、「自分では考えつかなかったような新しい考えに触れて、より深く考えられるようになったり、授業中には考えつかなかったことでも、通信を読んで

理解したり、違う視点から考えたりすることができるようになる<sup>9)</sup>」と述べている。

これを参考に、道徳通信を発行し、授業後にも多面的・多角的に考えられる機会を設けることとした。

## Ⅲ. 研究構想

### 1. 研究対象の生徒の実態

実際に生徒たちは道徳の授業についてどう考えているかを把握するために、第2学年A組の生徒40名を対象にアンケート調査を行った。アンケート項目は、以下に示した通りである(2021年5月17日実施)。

1	道徳の授業は好きですか。
2	1でそう答えた理由は何ですか。
3	道徳の授業での話し合い活動(自分の意見を伝える、友達の見聞を聞くこと)は楽しいですか。
4	3でそう答えた理由は何ですか。
5	道徳の授業で学んだことが日常に生かされていると思いますか。
6	5でそう答えた理由は何ですか。

事前アンケートの結果は以下の通りであった。1名の欠席を除く39名の結果を集計した。

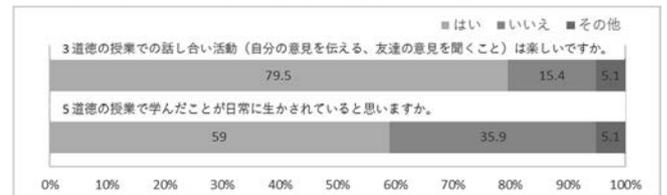


図3 道徳の授業アンケートの事前結果

「3 道徳の授業での話し合い活動(自分の意見を伝える、友達の見聞を聞くこと)は楽しいですか。」という質問に対して、79.5%の生徒が「はい」と回答している。その中でも、4の自由記述において、「見方を変えて考えることができるから」、「他者と自分の意見を比べることができるから」など、多面的・多角的に考えることについて楽しいと答える生徒は全体の56.4%であった。一方で、「自分の意見を伝えるのが得意だから」など別の理由で「はい」と答えた生徒や「いいえ」と回答した生徒、その他の回答をした生徒を含めると、4割以上の生徒が道徳の授業において多面的・多角的に考えることへの意識が低いと考えられた。

さらに、「5 道徳の授業で学んだことが日常に生かされていると思いますか。」という質問に対しても「はい」と回答する生徒が59%と6割をきってしまった。「いいえ」と回答した生徒の6の自由記述を見ると、「生かされる場面がない」、「道徳でやったことを忘れてしまっている」などの理由が書かれていた。

以上より、本研究において、「立場や状況など見方を変えること」、「他者の意見と比べること」を意識させることで多面的・多角的に考える力を育成し、道徳的価値を日常の姿と結びつけさせることで、授業で考えたことを日常に生かしながら他者とよりよく生きようとする生徒を育成しようと考えた。

### 2. 実践の手立てとなる授業デザインと使用教材

#### (1) 思考パターンを意識した道徳の授業づくり

道徳の授業づくりにおいて、図2の関連的思考を除く4つの思考を促すことができるよう、以下のように授業をデザインした。

導入場面 [直感的思考]	授業を通して考えを深めてほしい道徳的価値について、学習前の認識の確認や教材に出会ったときの直観的な気づきを大切にす。
展開場面 [分析的思考]	個人追究や意見交流の際に思考ツールを活用することで思考を整理し、新たな気づきを得られるようにする。
終末場面 [内省的思考]	整理された考えをもとに自分を見つめ直す時間を設定する。
授業後 [発展的思考]	授業で学んだ道徳的価値について再考できる道徳通信を発行し、さらなる個人追究を促す。

## (2) 使用教材：思考ツールについて

多面的・多角的な考えを促す代表的な思考ツールとしてXチャートやYチャート、バタフライチャートがある。しかし、教材や生徒の実態によってはそれらのチャートが適切でない場合がある。使用する思考ツールは諸富(2020)<sup>5)</sup>を参考にし、教材や生徒の実態に応じて適宜工夫して活用することとした。

## (3) 使用教材：道徳通信の内容について

道徳通信の構成は「授業の振り返り」「考えを深める一コマ」「日常生活の姿の価値づけ」の3部構成とする。

「授業の振り返り」では、ワークシートに書かれた生徒の内省的思考にかかわる意見の中から異なる見方をしているものを意識的に取り上げ、それらを共有することで、多面的・多角的に考えられるようにした。

「考えを深める一コマ」では、鈴木(2020)の「小さな道徳授業」<sup>10)</sup>を参考にし、漫画の一コマを使って、授業で考えた道徳的価値について再考できるようにした。「日常生活の姿の価値づけ」では、日常生活で見られた生徒の姿を取り上げ、道徳の授業と結びつけながら価値づけていくことで、道徳の授業の学びが日常に生かされていることに気づかせようとした。

## 3. 検証方法

### (1) 多面的・多角的に考えることについて

本研究において、多面的・多角的に考えることができるようになったかどうかについては、以下の2点から検証することとする。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前事後にとったアンケートの設問3及び設問4の自由記述の比較</li> <li>・ワークシートにおける分析的思考と内省的思考にかかわる記述内容の分析、及び道徳通信を配布した際の生徒の発言</li> </ul>
--

上記2点目に関しては、文部科学省の『「特別の教科道徳」の指導方法・評価等について(報告)』(2016)において次のように述べられていることを参考とした。

「児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点については、例えば、道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉えようとしていることや、自分と違う意見や立場を理解しようとしていること、複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることを発言や感想文や質問紙の記述等から見取るという方法が考えられる。」 <sup>11)</sup>
---

### (2) 授業の学びを日常に生かそうとすることについて

本研究において、授業で考えたことを日常に生かそ

うとすることができるかどうかについては、事前事後にとったアンケートの設問5及び設問6の自由記述の比較により検証する。

## 4. 研究構想図

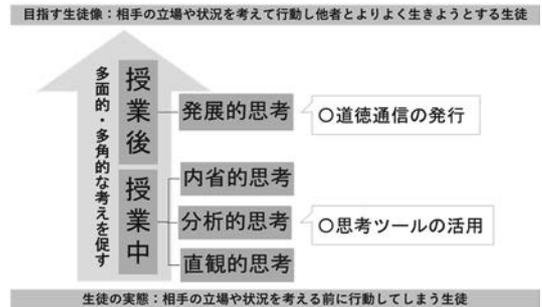


図4 研究構想図

## IV. 授業実践の具体と考察

### 1 第1次実践

#### (1) 授業の概要

- ① 日時：令和3年6月24日(木)
- ② 題材：私のせいじゃない
- ③ 内容項目 公正・公平・社会正義
- ④ ねらい：

物語に描かれている泣いている子の立場に立っていじめの問題について考え、誰に対しても公正に接し、差別や偏見のない社会をつくろうとする心情を育てる。

#### (2) 授業における生徒の様子及び考察

本授業で扱う題材はいじめについてである。1人が泣いており、9人がその様子を見ながら、泣いている理由についてそれぞれの考えを述べている話である。本授業では、9人の子それぞれがどうすれば、その1人が泣かなくて済んだのかを根拠とともに考えさせる。そして、グループや学級全体での意見交換を通して、いじめについて多面的・多角的に考えられるようになった上で、誰に対しても公正に接したいという思いやいじめは絶対に許さないという考えをもつことができるようにさせる。

導入場面では、直観的思考を引き出すため、2段階でイラストを見せた。まず、泣いている子のイラストだけを見せると、何か悲しいことがあったのではないかと想像する生徒の姿が見られた。次に、泣いている子と周りの見ている子を含めたイラストを見せると、「いじめられているから泣いている」とつぶやいていた。

展開場面では、なぜ1人が泣いているのかを、それを見ている9人の子の意見から考えさせた。9人の子の意見は次の通りである。

1	始まったときのこと、見ていないからどうしてそうだったか、僕は知らない。
2	始めたのは私じゃない。ほかのみんながたたき始めたのよ。私のせいじゃないわ。
3	大勢でたたいた。みんなたたいた。ぼくもたたいた。でも、ほんの少しだけだよ。
4	大勢でやったのよ。一人では止められなかった。私のせいじゃないわ。
5	ぼくはこわかった。何もできなかった。見ているだけだった。

6	先生に言いつければいいのに。弱虫なのよ。私には関係ないわ。
7	一言もしゃべらなかつた。ぼくたちを見つめていただけだった。さげばいいのに。
8	考えることがちがうんだ。全然おもしろくないんだ。自分のせいだよ。
9	そんなことがなかつたら、その子のことほとんど忘れていたわ。何も言わないんだもの。

次に、この9人の子それぞれがどうしていればこの子が泣かずに済んだかについて分析的思考を促すため、キャンディー・チャート(図5)を活用し、様々な立場から解決策を考えさせた。その際、1から9の主語を置くように指示し、多くて3人の立場から考えられるようにキャンディー・チャートを3つ提示した。



図5 本実践で活用したキャンディー・チャート

その結果、9名の生徒が3人の立場から、17名の生徒が2人の立場から、解決策を考えていた。以下が具体的な生徒の記述例である(下線部は筆者による)。

生徒A	
・もし4がみんなのことを止めていれば、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、みんながいけないことをしたことに気づき、いじめがなくなると思うから。	
・もし5が先生など他の人に伝えていれば、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、先生たちが解決してくれると思うから。	
・もし8が人それぞれ個性があり、考えが違うことを理解していれば、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、それぞれ考えることが違うことを理解し、この子を認めてあげられると思うから。	
生徒B	
・8が考えることが違ってもそういう考えもあるんだねと分かってあげていれば、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、 <u>自分を受け入れてくれていると思えるから。</u>	
・9が周りをちゃんと見て、9からこの子に話しかけていれば、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、この子は忘れられずに済んだから。	
・5が先生に言いつけに行けばこの子は悲しまずに済んだ。なぜなら、先生が助けてくれるから。	
生徒C	
・4が他の見ている人とこのいじめを止めていたら、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、止められれば、いじめがなくなって悲しむことがないから。	
・6が先生に自分から言いつけに行っていればこの子は悲しまずに済んだ。なぜなら、みんなで話し合いをして止められるから。	

一方で、12名の生徒が1人の立場から解決策を考えることができ、1名の生徒が解決策を考えることができなかつた。以下が1人の立場から考えた具体的な記述例である。

生徒D	
・誰かが止めたらこの子は悲しまずに済んだ。なぜなら、悪口を言われなくて済んだから。	
生徒E	
・たたいっている人が、他がたたいっているからってたかなければ、この子は悲しまずに済んだ。なぜなら、他の人がやっているから自分もやっていい、だたたく人が増えちゃうから。(筆者注:根拠が悲しまずにすむ理由になっていない)	

個人追究の後、「グループ→全体」の順で意見を共有した。全体で意見を共有する際には、考えが深められるように生徒同士の意見を比べて提示した。その結果、同じ人を取り上げていても理由が異なっていたり(傍

下線部)、人は異なってもすべき行動が同じだったり(波下線部)することに気づいた様子が見られた。

終末場面では、これまでの自分はどの立場であったかを振り返り、なぜそのような行動をとってしまったのか自分を見つめる時間を設けた。そして、悲しんでいる人がいたときこれから自分はどうしていきたいか意見を書かせた。以下が生徒の具体的な記述例である。

生徒F	
これまでの自分	5番。止めたいけど、今度は自分がいじめられそうで、止める勇気が出ないから見ているだけだった。
今後の展望	頑張つて、勇気を出してけんかを止めたり、いじめを止めたいです。どうしても勇気が出なかつたら、誰かを連れて一緒に止めたいと思いました。悲しんでいる人や困っている人の気持ちを考えて行動することができたらいいと思います。
生徒G	
これまでの自分	5番。もし止めに入って自分もいじめられたらいやだから。
今後の展望	みんなのいる前だとなかなか言い出せないで、みんながいないところで「どうしたの」などと聞いていきたいと思いました。

内省的思考の場面で自覚した自分の弱いところを踏まえて自分にできそうなことを考える姿が見られた。

半数以上の生徒が、キャンディー・チャートを活用した場面で、複数の登場人物の立場から、様々な根拠をもとにした解決策を考えることができた。これはキャンディー・チャートがもつ、根拠のある意見を提示できるという特徴が生かされた結果であると考えられる。そして、分析的思考の場面で、解決策について多面的・多角的に考え、整理したことで、内省的思考の場面では、いじめを防ぐために自分ができることをしたいという思いを高めることができたのではないかと考える。

一方で、3分の1の生徒が複数の立場で考えることができなかつた。その理由の一つとして、生徒Eに代表されるように「思考ツールの使い方がわからない」ことがあるのではないかと考えた。そこで、次回以降は可能な限り、他教科を含め使用したことのある思考ツールを活用したり、同じ思考ツールを繰り返し使ったりすることとした。

### (3) 道徳通信について

「授業の振り返り」では、内省的思考の場面における「自分にできそうなことからやろうとしている意見」や「加害者の話も聞くという意見」、「相手の性格に合わせて対応を変えたいとする意見」を取り上げ、さらに多面的・多角的に考えられるようにした。

「考えを深める一コマ」では、どんな人でも1人では生きていけないことに気づき、助け合いの精神を高めてほしいと考え、『ONE PIECE』にある「おれは助けてもらわねえと生きていけねえ自信がある」<sup>12)</sup>という言葉を取り上げ、道徳的価値について再考させた。

「日常生活の姿の価値づけ」では、学級で落ち込んでいる友達に対して、元気づけようとしていた生徒たちのことを紹介し、第1次実践の内容と結びつけなが

らその行動を価値づけた。

これを3週間後の水曜日の、朝の読書の時間に配布したところ、しっかり目を通して生徒や周りの友達と話し合っている生徒の姿を見ることができた。一方で、すぐにファイルに片付けてしまう生徒や読もうとしない生徒の姿も見られ、個人で読ませるだけでは効果は期待できないことがわかった。そこで、次回以降、生徒の発展的思考を促すために、10分程度の時間を設けて、筆者が語りかけたり、生徒同士で話し合う時間を設けたりすることとした。

## 2 第2次実践

### (1) 授業の概要

- ① 日時：9月16日（木）
- ② 題材：ゴール
- ③ 内容項目：友情・信頼
- ④ ねらい：

登場人物5人のすれ違いの原因と解決策を考えると通して、友情を大切にするために必要なことに気づき、友情を深めようとする態度を育てる。

### (2) 授業における生徒の様子及び考察

本授業で扱う題材は、友情についてである。バスケットボール部の5人が新人戦で強豪校に勝つことを目標に練習をしている中、チームメイトの数々のすれ違いによりチームがばらばらになってしまうが、直接本音を伝え合うことで乗り越えていく内容となっている。

本授業では、試合に負けた後に行われたメッセージのやりとりにおいて、自分がリカの立場だったらどう感じるかについて考えさせた。そして、学級全体で意見を比べることで、友情を大切にするために必要なことについて多面的・多角的に考えられるようになった上で、相手の立場や状況を考え行動したいという気持ちをもたせたいと考えた。

導入場面では、友情について直観的思考を引き出すため、「友情を大切にすることは具体的にどうすることか」と発問した。生徒から「毎日話しかける」、「相手が嫌がることをしない」、「お互いに譲り合う」という意見が挙がった。展開場面では、バスケットボールの練習試合で最後のシュートを外してしまったリカになりきり、チームメイトから送られてきたメッセージをポジティブに受け取るかネガティブに受け取るかについて、思考ツールとして数直線（図6）を活用し、自分の立場を明らかにさせた。このとき、その後の物語の展開に左右されないように、以下のメッセージのやりとりが出てきた場面で教科書を閉じさせた。

美希	今日はとってもくやしかった。
優	そうだね。
はな	私もくやしい。
リカ	今日は、ごめんね。
美希	リカなら決められる位置だったと思うけどなあ。
優	あれが決まっていれば、逆転勝利だったよね。
はな	リカ、シュート練習をしっかりとね。
樹里	負けたのは、リカ一人のせいじゃないよ。



図6 本実践で活用した数直線

個人で考えさせた後、黒板に書いてある数直線に、ネームプレートを貼らせると立場は分散した。それぞれの立場と意見をまとめると以下ようになった。

ポジティブ	「練習試合だし、新人戦で活躍できるように練習すればよい」
どちらかと言えればポジティブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブな考えのみ</li> <li>「練習試合だし、たいしたことない」</li> <li>「もっと練習して次は確実にシュートを入れるようにしたい」</li> <li>・ネガティブな思いも含む</li> <li>「次は絶対に入れようと思う。けど、少し引きずる。」</li> </ul>
中央	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブとネガティブな思いの交錯</li> <li>「新人戦に向けて切り替えようとするけど、一方的に責められて複雑な気持ち」</li> <li>・どちらでもない</li> <li>「本当のことをみんなが話していて、悪口を言われているわけじゃないから何とも思わない」</li> </ul>
どちらかと言えればネガティブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブな思いも含む</li> <li>「自分をずっと責めて、次は頑張ろうってなる」</li> <li>・ネガティブな考えのみ</li> <li>「みんなに申し訳ない」</li> <li>「また同じミスをしてしまいそうでこわい」</li> </ul>
ネガティブ	「自分のせいで負けたという思いが強くなる」

さらに、友情を深めるために大切にすべきことについて分析的思考を促すため、チームがバラバラになってしまった原因とその解決策を登場人物のそれぞれの立場で考えさせた。以下が全体発表時の意見である。

原因	解決策
美希が樹里とリカの話を受けない	・ちゃんと相手の話を聞く
美希のキャプテンとしてのプレッシャー	・自分でいっぱいになるのではなく他の人にも目を向ける
はなと優が美希の意見に流されている	・自分の意見をしっかりと言う ・みんなで責めない
リカが何も言わず部活を早退した	・事情を説明する

終末場面では、内省的思考を促すため、これまで生徒から出された意見をもとに、友情を大切にすることについて、自分を見つめ直す時間をとった。そして、友情を深めるために大切にしていきたいことについて意見を書かせた。数直線の活動で気づいたことを踏まえた意見を書いている生徒が3名いた。

生徒H	自分も部活に夢中になりすぎて、相手の意見を聞かずに責めてしまったことがあるので、これからは相手の事情などを聞いてから相手を傷つけない言い方をしようと思った。今日の授業で1つの言葉でも1人1人違った受け取り方をすることが改めて理解したので、これからは自分の言葉に責任をもって発言したいです。
生徒I	遊び半分で言っていた言葉で傷つけていたかもしれない。自分が相手だったらどう思うか少し先のことを考えて行動できたらいいと思う。バスケの試合で負けたときも一人のせいにしていたなって今思う。チーム競技だからじゃなくて、友達や知り合いだから友情を大切にしていきたい。
生徒J	私も部活動で「ソフトは上手じゃないから、声だけでも頑張る。チームのためになる。」という思いでアドバイスとして声を出してい

たけど、今思えば、まだ始めたばかりの一年生は特に、落ち込んだりしてしまっただけかなと思いました。私もみんなで何か言われて悲しくなった経験があるので友情を大切にするために自分に置き換えてアドバイスできるようにしたいです。

一方で、上記以外の生徒の大半は、原因と解決策を考えた活動で気づいたことを踏まえた意見を書いていた。以下が、それらの具体的な記述例である。

生徒K
一人でつぶしらずに人の話は最後まで聞いて、話をささげらない。チームメイトを大切にするために、相手のことや気持ちをちゃんと知ろうと思った。
生徒L
私は今まで失敗や間違いをしてしまったら、みんなが全力で助けてくれました。今度は私もみんなを大切にしていこうと思うし、傷つけたりすることはしたくないなと思いました。もし、この人たちがみたいになってしまったら、みんなで原因や解決策を考えていきたいなと思います。

3人の生徒が数直線を活用した場面で得られた気づきを踏まえながら、内省的思考の場面で友情を深めるために、相手のことを考えて行動したいという思いをもつことができた。一方で、それ以外の生徒は、生徒Kや生徒Lに代表されるように「相手の話をしっかり聞いていきたい」、「みんなで原因と解決策を考えていきたい」など、チームがばらばらになってしまった原因と解決策を考える場面で得られた気づきをもとに書いていた。これは、分析的思考の場面における2つの活動がそれぞれ独立したものになってしまったことが原因だと考えた。そこで、次回以降の実践において、今一度、思考ツールを活用することが目的にならないように、教材に合わせて活用したり、授業の流れや活動の結びを意識して展開を考えたりすることとした。

### (3) 道徳通信について

「授業の振り返り」では、授業では取り上げることができなかったチームがバラバラになってしまった原因と解決策を紹介することで、さらに多面的・多角的に考えられるようにした。また、内省的思考の場面で書かれていた「友達を裏切らないようにしたい」という意見を取り上げ、「友達を裏切らないとはどういうことだろう。」と投げかけ、「友情を大切にすることについて考えを深められるようにした。

「考えを深める一コマ」では、『MAJOR』にある「野球は一人じゃできません。いえ、野球にかぎらず、どんなスポーツも人との信頼や友情があってこそ、その先にある勝ち負けに意義があるのです。」<sup>13)</sup>という言葉を取り上げ、「友情や信頼がなくても勝てればそれでいいのでは。」と思考を揺さぶる発問をし、道徳的価値について再考させた。

「日常生活の姿の価値づけ」では、生徒が筆者にしてくれたことを紹介し、そうした行動は信頼を生み、よりよい人間関係を築くことにつながると価値づけた。

これを2週間後の木曜日の1限（自習の時間）に配布した。第1実践の反省をもとに、15分程度の時間を設け、説明を加えたり、問いかけたりすることで、発

展的思考を促すことができるようにした。

「授業の振り返り」の場面では、「友達を裏切らないとはどういうことだろう」と発問すると、「嘘をつかない」、「約束を守る」という意見を引き出すことができ、友情を大切にするために必要なことについて考えを深めさせることができた。さらに、「考えを深める一コマ」では、思考を揺さぶる発問をしたことで悩む姿も見られたが、ペアワークをさせる中で「このチームだからこそ勝ててうれしいとか負けて悔しいとかあるんだよ」など、友情の大切さについて自分なりの考えをもつ生徒の姿を見ることができた。

## 3 第3次実践

### (1) 授業の概要

- ① 日時：9月30日(木)
- ② 題材：白ご飯を目指して一萩野公介
- ③ 内容項目：節度・節制
- ④ ねらい：

気持ちを整えることのよさと方法を考えることを通して、心身の健康・安全を大切にしようとする心情や工夫して困難を乗り越えようとする思いを高める。

### (2) 授業の実践について

本授業で扱う題材は、不安からくる気持ちの乱れの整え方についてである。リオデジャネイロオリンピックで活躍した水泳選手の萩野公介の過去の挫折とそれを乗り越えるまでの経験が描かれた内容となっている。

本授業では、萩野公介が自分と向き合うことで、不安な気持ちを整えていく場面から、気持ちが整っているとどのような利点があるのか考えさせる。そして、学級全体での意見交換を通して、気持ちを整えるよさについて多面的・多角的に考えられるようになった上で、心身の健康や安全のために気持ちを整えようという思いや困難に立ち足らなかつたときにも工夫して乗り越えようとする思いを高めることができるようにする。

導入場面では、気持ちを整えることについて直観的思考を引き出すため、「気持ちが整っている状態とはどのようなイメージかな」と発問した。生徒からは「冷静」、「ポジティブ」という言葉が挙がった。展開場面では、水泳選手の萩野公介の気持ちの整え方を確認することで、気持ちを整えるとはどういうことか理解できるようにした。そして、「気持ちを整えることのよさ」について分析的思考を促すため、ウェビング(図7)を活用して考えさせた。個人追究の際、机間指導をしていると「気持ちが整っていると自信がつく → 自信がつくといい方向に進む」といった情緒面でのよさについての意見や「気持ちが整っていると睡眠がしっかりとれる → 睡眠がしっかりとれると朝から行動できる」といった行動面のよさについての意見などが見られた。これらの意見が重ならないように生徒を指名し、黒板に書かせることで、気持ちを整えるよさについて考えを広げることができるようにした。

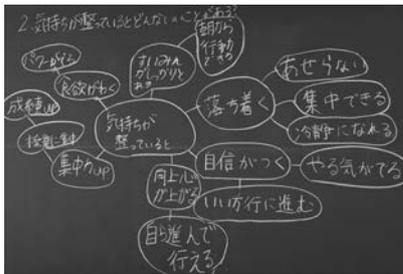


図7 生徒が作ったウェビング

気持ちを整えることのよさについて、多面的・多角的に考えることができるようになった上で、自分が不安になる場面を思い出し、その解決策を萩野公介の気持ちの整え方を参考にしながら考えさせた。また、友達からアドバイスをもらうことで、気持ちを整える方法について考えを深められるようにした。

終末場面では、内省的思考を促すために、これまで生徒から出された意見をもとに、自分に合った気持ちの整え方について、自分を見つめ直す時間をとった。そして、今後の生活で意識したいことについて意見を書かせた。以下が、生徒の具体的な記述例である。

生徒A
気持ちが整っていると元気が出たり、スッキリしたり、落ち着くことができるので、気持ちを整えるようにしたいです。不安になってしまふときには、深呼吸やジャンプをしたりしてリラックスするようにしたいです。失敗してしまったときは、それを課題として気持ちを切り替えて取り組むようにしたいです。
生徒M
気持ちが整っているときは、集中できたり、自信がついたりして、たくさんいいことがあるなと思いました。テスト直前、大会前は緊張して不安になることが多いと思うけど、それに向かって頑張って練習してきた自分を信じていきたいと思いました。

国語の授業で活用したことのあるウェビングを使うことで、35名の生徒が2つ以上の視点から気持ちを整えるよさについて考えることができた。また、様々な利点や相互作用があることに気づくことができた。

残りの4人の生徒は、これまでの道徳の授業においても白紙であったり、一つの意見しか書けていなかったりすることから、「書くこと」に苦手意識があったり、様々な角度から考えることができなかったりする可能性がある。このような生徒には、個別の支援が必要であると考えた。

### (3) 道徳通信について

「授業の振り返り」では、生徒が考えた気持ちの整え方を紹介し、日常生活に生かせるようにした。

「考えを深める一コマ」では、『ドラえもん』にある「いちばんいけないのは自分なんかだめだと思ひこむことだよ。」<sup>14)</sup>という言葉を取り上げ、「なぜ、自分なんかだめだと思ひこむことはいけないのか。そう思うことがあってもいいのでは。」と思考を揺さぶる発問をし、多面的・多角的に考えられるようにした。

「日常生活の姿の価値づけ」では、筆者が指導に加わる部活動で見られた試合前に心を落ち着かせようと自分の胸をたたっている生徒、サーブを打つ前に毎回ボールを決まった数だけバウンドさせている生徒を紹

介し、日常生活の中で自然と気持ちを整えていることを認識できるようにした。

これを1か月後の金曜日の、帰りの会の時間の10分を使って配布した。「考えを深める一コマ」では、ペアで話し合わせたところ、自分なんかだめだと思ひこむことがいけないということについて賛成派と反対派で意見は分かれた。考えが違うペアでは意見交換が盛り上がる様子が見られた。一方で、考えが同じペアについてはお互いの意見に同意して話し合いが終わってしまっていた。時間の都合上、今回はペアでの話し合いのみになってしまったが、全体で共有できるとさらに考えを深めさせることができたのではないかと考えた。

## 4 第4次実践

### (1) 授業の概要

- ① 日時：10月21日(木)
- ② 題材：注文をまちがえる料理店
- ③ 内容項目：相互理解・寛容
- ④ ねらい：

認知症の人が働く料理店の「間違いを受け入れ、いっしょに楽しむ」という価値観に触れることを通して、様々な人の立場や個性を尊重しようとする心を育てる。

### (2) 授業における生徒の様子及び考察

本授業で扱う題材は、認め合う心についてである。認知症の方が働く料理店について描かれ、「間違いを受け入れ、一緒に楽しむ」という新しい価値観を得ることができる内容となっている。

本授業では、新しい価値観を得た後で、様々な個性や立場をもつ人たちと過ごす中で、お互いを認め合い受け入れるためにできることについて考えさせる。そして、グループや学級全体での意見交換を通して、お互いを認め合い受け入れるためにできることについて多面的・多角的に考えられるようになった上で、自分ができることからやっていきたいという考えをもつことができるようにさせる。

導入場面では、直観的思考を引き出すために「注文をまちがえる料理店」というタイトルだけを提示し、「このようなお店があったら行きたいと思うか、思わないか」と問いかけた。このとき、どちらかに手を挙げるように言うと39名中34名の生徒が「行きたいと思わない」と答えた。

展開場面では、題材を読んだ後で、再度導入場面と同じ発問をした。その結果、39名中30名が「行きたいと思う」と答えた。その理由として、「おおらかな気持ちで笑い合える姿に憧れたから」、「認知症の人が頑張っていることを知ったから、嫌いなものが出てきても頑張って食べたい」などの意見が挙がった。一方で、行きたいと思わないと答えた生徒は「苦手な物だったり、アレルギーだったりしたら、食べられずに終わる可能性があるから」、「もし嫌いなものや食べられない物が出てきて食べられなかったら、お店側に

も失礼だから」などの意見が挙がった。

次に、認め合う心について分析的思考を促すため、「様々な人と生活する中で、ぶつかり合うこともある。お互いのことを認め合い、受け入れていくためにあなたは何かできるだろう」と発問し、個性や立場を尊重するためにできることについて考えられるようにした。個人で思いつくだけ考えを付箋に書かせ、書いた意見をグループで共有させた。このとき、座標軸(図8)を使い縦軸は考え方と行動で分け、横軸はすぐできることと時間がかかることで分類分けさせることで、新しい気づきを得られるようにした。

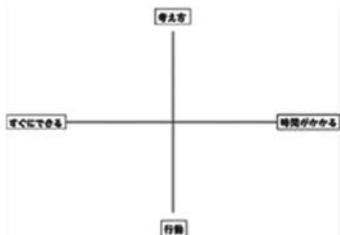


図8 本実践で活用した座標軸

終末場面では、内省的思考を促すために、これまで生徒から出された意見をもとに、お互いを認め合い受け入れるためにできることについて、自分を見つめ直す時間をとった。そして、今後の生活で意識したいことについて意見を書かせた。以下が具体的な記述例である。

生徒N
みんなが出し合った意見の中から自分がこれならできるといったことをやっていきたいと思いました。相手の考えも受け入れる、一方的に主張せず違う視点で見る、信用し信頼される人になる。この中からまず相手の考えも受け入れる、を頑張ってやっていこうと思います。
生徒0
お互いのことを認め合うために、相手の気持ちを考えるということが大事だと思ったので生かしていきたいです。行動を起こすことは比較的すぐできるけど、考え方を変えるのは時間がかかる。でも、お互いのことを認め合えるために考え方も変えていきたいと思いました。

学級活動の時間で座標軸に似たツールを活用し分類分けしたことがあるため、座標軸を使って意見交換をする場面において、全ての生徒が戸惑いなく使うことができた。また、座標軸を活用したことで、すぐできることなのか時間がかかることなのか、行動なのか考え方なのかということ整理し、自分にもできそうなことがあるということに気づかせたり、日常生活に生かそうとする意欲を高めたりすることができた。

### (3) 道徳通信について

「授業の振り返り」では、様々な人と生活する中でお互いのことを認め合い受け入れるために自分ができることについて、様々な方法があることに気づくことができるようにした。また、振り返りに書かれていた「価値観が違うことを理解し、相手を知ろうとすることが大切」とする意見や「お互い認め合うためには相手のことも知り、自分のことも知ってもらうことが大切」とする意見、「自分だったらどうしてほしいかを考えて行動したい」という様々な考えを取り上げ、さらに多面的・多角的に考えることができるようにした。

また、振り返りに書かれていた「自分と他人は違うということは理解できますが、なぜそこまでして他人と接しないとイケないのかなとふと思いました。」という素朴な疑問を取り上げ、考えさせることで他人と関わることにについて、考えを深められるようにした。

「考えを深める一コマ」では、様々な個性や立場について肯定的に受け入れていこうとする考えをもつことができるように『Dr. STONE』にある「なーんも得意がねえ奴だっけいつか何かの役に立つ。誰がボスだの一番だの関係ねえ。いろんな奴がいる＝強さなんだよ!!」<sup>15)</sup>という言葉を取り上げ、「なぜ、いろんな人がいることが強さになるのか」と発問した。

「日常生活の姿の価値づけ」では、合唱祭の練習において、自信をもって声を出せない友達やふざけてしまう友だちに対して優しくアドバイスをしたり、前向きな声をかけたりしていた姿を取り上げ、価値づけた。

これを3週間後の水曜日の、帰りの会の10分を使って配布したところ、「考えを深める一コマ」では、「誰かの苦手を誰かの得意で補うことができるから」など、それぞれの生徒が自分なりに言葉について考えを深めることができていた。一方で、「授業の振り返り」で取り上げた生徒から出た素朴な疑問に「そんなこと言っていないの」とどよめく生徒がいた。こうした姿から、日常的に多面的・多角的に考えることが意識できていない生徒がいることがわかった。「当たり前と思うこともどうしてだろうと考えることはいいこと」と継続的に伝えていくことが必要だと考えた。

## 5 第5次実践

### (1) 授業の概要

- ① 日時：10月28日(木)
- ② 題材：本当の私
- ③ 内容項目：よりよく生きる喜び
- ④ ねらい：

悩みながらも自分の弱さを克服していく主人公の姿から、よりよく生きるために必要なことを考え、日常生活に生かそうとする態度を育てる。

### (2) 授業における生徒の様子及び考察

本授業で扱う題材は、自分らしく生きることについてである。アメリカの陸上選手エイミー・ブラウンが、世界選手権でドーピングによりアメリカ史上初の100m、200mの二冠を達成するものの、テレビに映る自分を見て「こんなの本当の私じゃない」と思い、ドーピングを使っていたことを公言する内容となっている。

本授業では、エイミーが勇気を出してドーピングを公言した場面で、勇気ある行動とよりよく生きることについて考えさせる。そして、グループや学級全体での意見交流を通して、勇気ある行動とよりよく生きることについて多面的・多角的に考えられるようになった上で、状況や場面を考えよりよい行動をしていきたいという考えをもつことができるようにさせる。

導入場面では、勇気ある行動について直観的思考を引き出すために、勇気を出してよかったと思う経験と出さなければよかったと思う経験について周りの人と話し合わせた。勇気を出してよかったと思う経験については、「児童会に立候補したとき」、「ほしいものを買ってと言ったら買ってもらえたとき」などと様々な意見が挙がる一方で、勇気を出さなければよかったと思う経験について答える生徒はいなかった。展開場面では、主人公のエイミーがドーピングを使っていたことを公言した理由について考えさせた。生徒からは「金メダルをとった喜びよりも罪悪感の方が強かったから」、「テレビに映っていた自分が気持ち悪く見えたから」などの意見が挙がった。ここで、勇気ある行動とよりよく生きることについて分析的思考を促すため、エイミーのように勇気ある行動をした経験とそのときの気持ちを思い出させ、付箋に書かせた。また、勇気ある行動をしなかったときの経験とそのときの気持ちについても同様に付箋に書かせた。次に、書いた意見をグループで共有させた。このとき、座標軸(図9)を使い、縦軸は「プラスな気持ち」と「マイナスな気持ち」で分け、横軸は「勇気ある行動をしたとき」と「勇気ある行動をしなかったとき」で分類分けさせることで、新しい気づきを得られるようにした。

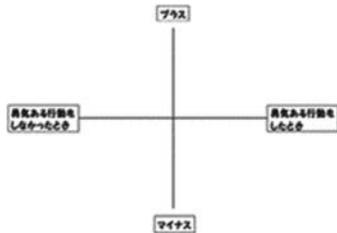


図9 本実践で活用した座標軸

終末場面では、内省的思考を促すために、これまで生徒から出された意見をもとに、よりよく生きることについて自分を見つめ直す時間ととった。そして、今後の生活で意識したいことについて意見を書かせた。以下が、生徒の具体的な記述例である。

生徒P 今日の授業で、勇気ある行動をしなかったときでもプラスな気持ちになれることもあるとわかったので、そのときの場面によって、行動するのかしないのかをしっかりと判断できるようにしていきたいです。自分はやらずに後悔してしまうことが多かったけど、今日、やって後悔した方がいいと思ったので、これからいろんなことに挑戦したいです。
生徒K 結果は良くも悪くもあとで後悔しないように勇気を出そうと思いました。だめなことをしたり、相手の嫌だと思ったことをしてしまったときに、ためらわず、迷わずに謝ろうと思いました。相手を傷つける勇気はださないようにしようと思いました。
生徒J 勇気を出そうと思っているときはいつも、自分の気持ちに素直にならなきゃと思っているのと同じなので、勇気を出して後で後悔することも、そう思えば少ないんじゃないかなと思いました。私は勇気を出して後悔することが多いので、「いい経験になった」とかポジティブに変換して明るく気持ちでいれるといいと思います。

第4次実践と同じ思考ツールを活用することで、生徒の戸惑いもなく活動を進めることができた。また、

勇気ある行動をしたときの気持ちと勇気ある行動をしなかったときの気持ちを引き出し、座標軸にまとめることで、勇気ある行動は必ずしもよりよく生きることにつながるわけではないことに気づかせることができた。また、自分の性格も踏まえて、勇気ある行動について考えを深めることができていた。今回の実践は、35人の生徒が全ての活動を通して考えたことを踏まえて自分なりの意見を書くことができていた。

### (3) 道徳通信について

「授業の振り返り」では、日常生活の中で、「勇気ある行動をしてもしなくても後悔することがあるから、先を考えて行動したり、相手の立場を考えて行動したりしたい。」「これまで自分は勇気を出すことから逃げてしまっていたから、勇気を出していきたいと思った」などという意見を取り上げ、さらに多面的・多角的に考えられるようにした。

「考えを深める一コマ」では、よりよく生きるための勇気を出そうとする思いを高めたいと考え、『名探偵コナン』にある「勇気って言葉は身を奮い立たせる正義の言葉」<sup>16)</sup>という言葉を取り上げ、今まで出してきた勇気は「正義」のものであったか、これから出そうとしている勇気は「正義」であるか考えさせた。

「日常生活の姿の価値づけ」では、授業中の挙手や役員や実行委員への立候補、困っている人の手助け、授業中ふざけてしまう友だちへの注意など、様々な勇気を出していることを取り上げ、第5次実践の内容と結びつけながらその行動を価値づけた。

これを3週間後の木曜日の、帰りの会の10分を使って配布したところ、「考えを深める一コマ」では、勇気と正義のつながりに驚く姿を見せた後に納得した様子を見せた生徒がいた。これまでにない価値観を紹介することは、考えを深めることができるいい機会になると考えた。

## V. 成果と課題

本研究では、多面的・多角的に考える力を育成するために、思考パターンを意識した道徳の授業を構築した。そして、思考ツールを活用したり道徳通信を発行したりすることで、授業場面や授業後に多面的・多角的に考えられる機会を設定した。

### 1 アンケート結果からの検証

多面的・多角的に考えることに関する生徒の考えがどのように変化したかについて、事前と事後にとったアンケートの結果を見ることとする(図11。事後アンケートは2021年11月19日に実施)。

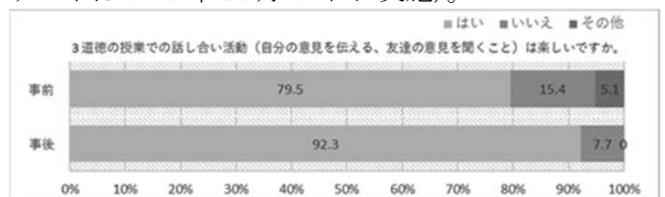


図11 設問3における道徳の授業アンケートの結果

「3 道徳の授業での話し合い活動（自分の意見を伝える、友達の意見を聞くこと）は楽しいですか。」という質問に対して「はい」と回答した生徒が 12.8%伸びた。「はい」と回答した理由について、設問 4 の自由記述を見てみると、「見方を変えて考えることができるから」、「他者と自分の意見を比べることができるから」という内容が多く見られた。そして、多面的・多角的に考えることについて上記のような理由により楽しいと答えた生徒の割合が、事前には全生徒の 56.4%だったことに対し、事後には 74.4%となった。このことから、多面的・多角的に考えようとする生徒が増えたと考えることができる。

また、授業で考えたことを日常に生かそうとしているかどうかについても事前と事後で分析をした。

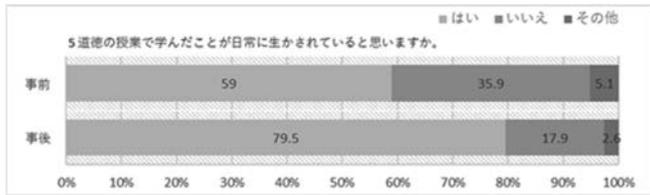


図 12 設問 5 における道徳の授業アンケートの結果

「5 道徳の授業で学んだことが日常に生かされていると思いますか」という質問に対して「はい」と回答する生徒の割合が 20.5%伸びた。事前で「いいえ」と回答し、事後で「はい」と回答した生徒の意見の変化には以下のようなものがあった。

事前	事後
現実で生かせそうな場面がないから。	思いやりをもつことなどに生かされていると思う。
話がおもしろいだけで、生かそうとしていないから。	少しは周りが見れるようになった。
そういうときがあまりない。	日ごろから、相手の立場に立って考えることができていると思う。

このように、道徳通信における「日常生活の姿の価値づけ」により、生徒が、道徳の授業で学んだことは日常に生かされていると実感することができたのではないかと考える。特に、表の最後に見られる「相手の立場に立って考えることができていると思う」という記述から、授業で考えたことを日常に生かしながら他者とよりよく生きようとする態度を育成することができたのではないかと考える。

## 2 ワークシートの記述内容及び道徳通信を配付した際の生徒の発言からの検証

第 2 次実践における数直線を活用した展開や、第 4 次及び第 5 次実践における座標軸を活用した展開等で見られた生徒の記述内容から、思考ツールは多面的・多角的に考える有効な手立てであることがわかった。

分析的思考から内省的思考へと展開する流れによって整理された考えをもとに相手の立場や状況を考えて行動し、他者とよりよく生きようとする記述が多数見られた。思考パターンを意識したことは、目指す生徒像を達成するための有効な手立てであったと考える。

授業後に配付した道徳通信では、例えば第 2 次及び第 3 次実践において、漫画の一コマと筆者による発問から生徒の思考が揺さぶられた姿が見られたように、発展的思考を促し、さらに多面的・多角的に考えられる機会を与えることができたと考える。

これらのことから、本研究では、思考パターンを意識した授業づくりと使用教材の効果が見られたのではないかと考える。

## 3 課題及び今後について

一方で、本研究において課題があることも明らかになった。以下の 5 点の課題とその改善案を示す。

課題	改善案
思考ツールの使い方がわからないと思考を停止させてしまう恐れがあること	他教科を含め使用したことのある思考ツールを活用したり、同じ思考ツールを繰り返し使ったりする
活動の流れの中で適切に思考ツールを活用できないと思考ツールを十分に生かせないこと	思考ツールを活用することが目的にならないように、教材に合わせて活用し、授業の流れや活動の結びを意識して実践を行う
道徳通信は配布するときに 10 分から 15 分程度の時間を有すること	勤務校によっては 10 分から 15 分の時間をとることが難しい場合は、学級活動や自習の時間を有効に活用する
道徳通信の作成には時間がかかること	4 月の時点で様式を作っておく
数回の実践では、力を育てることができないこと	年間を通して継続的に実践を行う

今後も道徳教育の目的の一つである「自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成すること」を目指し、指導の在り方を模索し続け、子どもたちに還元していきたい。

引用・参考文献一覧

- 1) 道徳教育の充実に関する懇談会 (2013)「今後の道徳教育の改善・充実方策について (報告) 一新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/\\_icsFiles/afiefieldfile/2013/12/27/1343013\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFiles/afiefieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf) (2021 年 2 月 15 日閲覧)
- 2) 文部科学省 (2016)「道徳教育について (教育課程部会考える道徳への転換に向けたワーキンググループ資料 4)」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyoku/chukyo3/078/siryu/\\_icsFiles/afiefieldfile/2016/08/05/1375323\\_4\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyoku/chukyo3/078/siryu/_icsFiles/afiefieldfile/2016/08/05/1375323_4_1.pdf) (2021 年 2 月 15 日閲覧)
- 3) 坂本哲彦 (2018)『「分けて比べる」道徳科授業』東洋館
- 4) 押谷由夫 (2020)「授業全体で、多様な道徳的思考力を育てる—理性と感性と道徳的資質・能力を絡ませて—」『道徳教育 2020 年 5 月号』
- 5) 諸富祥彦・土田雄一・松田憲子 (2020)『考えるツール&議論するツールでつくる中学校道徳の新授業プラン』明治図書
- 6) 江口和紀 (2020)「二時間小単元で多面的・多角的な考えを引き出す〜子どもの目が輝くワークショップを通して」『道徳教育 2020 年 5 月号』
- 7) 在原徹 (2020)『「手品師」× (まなボード+付箋)』『道徳教育 2020 年 5 月号』
- 8) 伊藤藤高 (2020)「思考ツールを生かす①」『道徳教育 2020 年 5 月号』
- 9) 中山真樹 (2020)「学級通信・道徳通信に載せる」『道徳教育 2020 年 12 月号』
- 10) 鈴木健二 (2020)『中学校道徳ワンランク上の教科書活用術 道徳授業づくりの 4 つのステップ』日本標準
- 11) 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 (2016)『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について (報告)」[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afiefieldfile/2016/08/15/1375482\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiefieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf) (2021 年 2 月 20 日閲覧)
- 12) 尾田栄一郎『ONE PIECE』10 巻 (2012 年 11 月 6 日発売)
- 13) 満田拓也『MAJOR』5 巻 (1995 年 10 月 18 日発売)
- 14) 藤子・F・不二雄『ドラえもん』7 巻 (1975 年 5 月 2 日発売)
- 15) 稲垣理一郎『Dr. STONE』7 巻 (2018 年 9 月 4 日発売)
- 16) 青山剛昌『名探偵コナン』31 巻 (2001 年 3 月 17 日発売)